

インタビュー

環境に配慮する舗装の現状について

大林道路株式会社

東本 崇氏、森石 一志氏、藤原 栄吾氏、嶋崎明代氏 に伺う

現在、ヒートアイランド現象やゲリラ豪雨など都市環境は急激に変化しつつあり、都市を構成するインフラはより環境に配慮したものが求められている。こうした中で、都市インフラの大部分を担う道路舗装は環境配慮という観点から大きな役割を担っている。

そこで環境に配慮した道路舗装の現状について、大林道路(株)技術研究所材料研究室主任研究員の東本崇氏、同研究所工法研究室主任研究員の森石一志氏、同研究所環境研究室主任研究員の藤原栄吾氏、本店環境施設営業部課長の嶋崎明代氏の4名にお話を伺った。

(編集部)

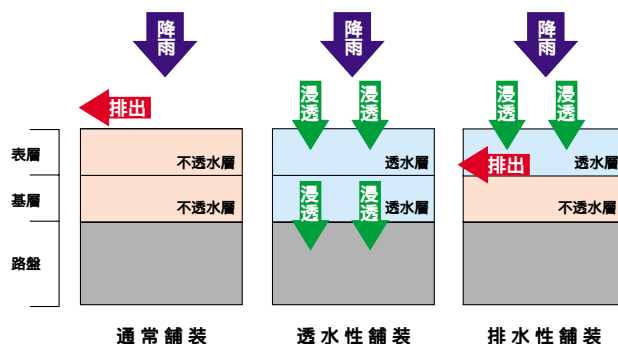


図1 舗装の種類

舗装業界は環境配慮に大きく貢献している

社会的ニーズとして舗装性能に求められていることを教えてください。

東本：これまで、舗装に求められていた性能というのは、車両が安全かつ円滑に運行するための平坦性・わだち掘れ、ひび割れ防止に限られていました。ただ、平坦な舗装をすることで車両を円滑に利用することが出来るので、結果として車両の燃費向上や沿道への粉塵や振動防止といった環境負荷軽減に寄与している部分があります。その一方で、都市部では地表を被覆することで雨水の貯留機能の低下や表面温度の上昇に伴う気温上昇といった環境問題が生じてきたことも確かです。

近年では特に環境といった社会的ニーズの高まりによって、環境負荷の少ない持続的発展可能な社会の構築を目指して1993年に環境基本法が制定され、物質的な豊かさだけでなく、安心や健やかさといった精神的な豊かさが生活に求められるようになりました。舗装業界でも多様な観点から環境負荷軽減の出来る舗装が求められてきています。特に最近では、京都議定書や2020年の温室効果ガス排出削減中期目標となっている25%削減で話題のCO₂排出抑制といった技術が目ま



図2 通常の舗装と排水性舗装の違い(出典：土木研究所、一般向けパンフレット)

れているほか、雨水についても2004年に特定都市河川浸水被害対策法の制定もなされ、あらゆる社会的環境ニーズが舗装業界に関わってきています。また、この業界ではリサイクルにも力を入れていて、舗装に使用されているアスファルト混合物は、ほぼ100%が再利用されています。また、アスファルト混合物全体の約8割が再生アスファルト混合物を使用しており、資源の保全にも大いに寄与しています。